

特集

保健師を成長させたターニングポイント

保健活動のなかで訪れた転機

看護しつつ生きるとは 死の淵で語った仲間へのメッセージ ————— 財部マチ子

私を育ててくれた事例・事業 ————— 有馬和代

人との出会い、学会での出会い ————— 西山真弓

保健師としての人間力を育てたたくさんの出会い ————— 村中峯子

保健師としてのキャリアとターニングポイント ————— 栗岡住子

それぞれの事例からみた保健師とその活動のターニングポイント ————— 鳩野洋子

編集後記

●「なるほど」と胃の腑に落ちた思いのした会合であった。会合とは、さる5月20日新潟市の朱鷺メッセで行われた日本看護協会保健師職能集会のことである。「なるほど」というのは、集会のなかで多くの発言者が共通して語っていた「みて きいて・つないで うごかし・つくって みせる」という言葉のことである。

弊誌の担当になってから、しばしば耳にしてきた言葉で、当たり前のように共通して語られることに気づきながら、それは私にとって、何時から、何処で、誰が、どのように決めたのか、が不明な言葉であった。

専門職の間で語られる言葉は専門職同士が理解できれば良いし、ときに専門職者以外に簡単に通じてしまうと具合の悪いこともあるので、それゆえに専門用語の存在の意義もあるが、逆のケースで、専門職以外にも通じるとしてそのまま使ってしまうと、コミュニケーションに齟齬をきたしてしまうだろう。

私たち編集者が使う言葉のなかにも、出版に携わっているからこそわかる専門用語はある。そのなかで、いつのまにか読者が理解できないような編集後記を書いていたということのないように気をつけたい。(杉之尾)

●私が保育園の年長だったとき、片思い中のクラスメイトが「右利きの人が好き」と友だちとおしゃべりしていたのを盗み聴きました。当時左利きだった私は、その理不尽さを受け入れつつ、ひそかに右利きになるべく努力したものです。人が行動変容する契機は実にさまざまで、変えることでメリットがあるからというだけではなく、ただなんとなく気が向いたから、ということもあります。佐甲論文の「DATEモデル」のくだりを読んでいて、遠い昔のことを思い出しました。コミュニケーション能力の重要性という表現自体、正直何度も聞いているよ、という読者の方もいるかと思います。「言うは易く、行うは難し」というか、できる人は言われなくともやっている。そういった暗黙知の類を、本特集ではコミュニケーションの達人にできる限り具体的な場面を想定してご執筆いただきました。熟慮の末、あるいはなりゆきで選んだ道のつらなりが人生だとするなら、対象者がその道々で出会う保健師とのコミュニケーションはこれまでの自身の歩みを振り返らせ、より健康的な到達点に向かって行動していく貴重な機会になります。弊誌も保健師の方々に有益な情報をお届けできるように、コミュニケーション能力を高めていければと思います。(長谷川)

保健師ジャーナル 第65巻7号 2009年7月10日発行(毎月1回10日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd, 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo©2009, Printed in Japan

1部定価1,365円(本体1,300円+税5%) 2009年年間購読料(税込、送料弊社負担)15,000円, MedicalFinder パーソナル付20,000円

発行 株式会社 医学書院 代表者 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 販売部(03)3817-5657 社内案内(03)3817-5600

保健師ジャーナル編集室(03)3817-5774 電子メールアドレス hokenshi@igaku-shoin.co.jp 担当/杉之尾・長谷川・伊藤

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

JCLS <(株)日本著作出版権管理システム委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上の例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム(電話03-3817-5670, FAX03-3815-8199)の承諾を得てください。1348-8333/09/¥250/論文/JCLSが本誌の頁表記に並んで記されているのは、1論文1回複写につき250円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCLS宛にご連絡いただく際には、筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。